

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	3071200830
法人名	社会福祉法人 皆楽園
事業所名	グループホーム のぞみ
所在地	和歌山県岩出市山591番地 (電 話) 0736-69-3552

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年4月17日	評価確定日	平成21年5月26日

【情報提供票より】(平成 21 年 3 月 9 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0 人, 常勤換算	6.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての		2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,800 円	その他の経費	月額 330 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(3 月 9 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低 79 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	榎本病院 西歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和歌山では早くから高齢者福祉に取り組まれている大型法人を母体に持ち、岩出市の自然が多く残る地域に立地します。一階にデイサービスを併設し、合同で行事をしたり、日常でも行き来が自由に出来ます。ホーム内は開放感があり、季節の花や飾り付け、お気に入りの場所の確保等、ハード面でも工夫を重ねられています。利用者は居室から見える風景で季節を感じながら、また、リビングで語らいながら穏やかに時を過ごされています。家族とのつながりを大切に考えられているホームであり、本人にとって一番とは何かを常に問いかけながら、ケアを提供されています。利用者の思いを受けとめつつ、職員で話し合いを重ねた結果の取り組みである個別外出を充実させる事で、利用者の笑顔を多く引き出すと共に、職員の利用者への大切な思いも実現する事ができ、意義のある時間になり、更に個別ケアの重要性を認識する機会になっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の結果は全職員で確認を行い、話し合いながら改善に取り組んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価は、全職員が意見を書き込み、管理者がまとめて作成されました。項目を確認することで、更に地域との交流が大切であると認識する機会になっています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	家族、自治会長、民生委員、行政担当者、地域包括支援センター職員、法人役員、管理者、職員をメンバーとして2ヶ月に1度開催しています。まず、案内状を送付して日時を知らせ、会議ではレジュメを配布し、ホームの運営状況や行事、利用者の様子等の報告をしています。参加者とは意見交換の場になり、有意義な会となっています。議事録もフォーマットを工夫し、要点をおさえ読みやすいものにまとめられています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の来訪時や運営推進会議で意見や要望をいただいています。些細な事柄でも言っていただけるような関係の構築に努力されており、また、日常の会話の中から気持ちを汲み取り、ケアに反映しています。得られた意見にはすぐに対応し、職員間でも共有を図っています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入しています。地域の行事である夏祭り等に参加し、地域の溝掃除と一緒にいう等、少しずつではありますが、交流が増えています。中学生の職場体験の受け入れも行っています。今後は、ホームや併設のデイサービスと合同で行事を開催し、地域の方々にも参加を呼掛けたいと考えています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で生き生きと共に暮らすことを理念としているが、法人の基本方針の見直しに伴い、ホームの現在の理念を評価した上で見直し、職員間で話し合いながら、より利用者の生活に密着した理念を作る予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	本人ににとって一番大切なことは何かを常に問い、会議等で話し合い、振り返る機会を定期的に持ちながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。理念は、リビングに額に入れて掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の行事である夏祭り等に参加している。また、地域の溝掃除を一緒に行い、少しずつではあるが、交流が増えている。中学生の職場体験の受け入れもしている。今後は、ホームや併設のデイサービスと合同で行事を開催し、地域の方々にも呼掛けたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員が意見を書き込み、管理者がまとめて作成した。更に地域との交流が大切であると認識する機会になっている。前回の結果は全員で確認を行い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、民生委員、行政担当者、地域包括支援センター職員、法人役員、管理者、職員をメンバーとして2ヶ月に1度開催している。まず、レジュメを配布しながら、ホームの運営状況や行事、利用者の様子等の報告をし、参加者とは意見交換の場になっている。議事録も要点をおさえ読みやすいものにまとめられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは、役所に出向いて相談しアドバイスをもったり、電話連絡も多くとっている。地域包括支援センター主催のケアマネ交流会にも参加し、ホームの状況を報告したり、居宅の情報をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には直接暮らしぶりを伝えている。毎月、月次報告として、利用者のバイタルや体重等の身体状況や生活の様子を項目ごとに分けてコメントを書き込んだ手紙を請求書と共に送付している。金銭については預かり金対応で収支報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議で意見や要望をいただいている。些細な事柄でも言うていただけるような関係作りに努力している。また、日常の会話の中から気持ちを汲み取り、ケアに反映している。得られた意見にはすぐに対応し、職員間でも共有を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はやむを得ない面もあり、ホームに配属になると、まず、利用者を理解しながら日勤等の業務に就くことから始め、慣れてきた頃に先輩職員について夜勤業務を開始している。職員の希望や、それぞれの生活状況に合わせたシフトを組んでいる。有給もとりにやすいように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には順次参加できる体制を作っている。研修受講後は、報告書を提出し、会議等で伝達研修を行い、職員間で共有を図っている。法人内でも研修計画に沿って、毎月勉強会を開催している。働きながら学ぶ機会を多く作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、研修を受講したり、職員が順次、相互実習に参加して、他事業所の優れた点を学ぶと共に、職員同士で話し合う機会を持ち、サービスの向上に反映させている。法人のグループホーム同士でも利用者と一緒に相互訪問の機会を作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、見学に来ていただきリビングでお茶の時間を過ごし、雰囲気を感じていただいている。併設のデイサービス利用から入居に至るケースもある。入居決定の際には、利用している事業所に出向いて面接し、生活状況を把握した上で契約に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごすことや、会話の中から昔ながらの教えや日本の風習を聞いている。家長制度の下で、男性を立てるという教えや、家事等を一緒に行ないながら教えて頂く場面を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から聞いたり、職員の様々な角度からの観察や、何気ない日常の会話の中、表情から思いを把握している。家族に会いたいという思いが多く、叶えられるように働きかけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間で話し合った内容を基に、本人や家族の意見、要望を反映し、ホームでの生活に密着した介護計画を作成している。アセスメント様式としてセンター方式を一部使用している。	○	毎日の日誌の記録方法ですが、時系列に様子を書くだけでなく、介護計画と連動できるように工夫されることが期待される。計画のモニタリングや評価が行ないやすくなるのではないのでしょうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスでは、全利用者を議題にあげ計画のモニタリングを行うと共に、計画の評価を行い、3ヶ月に1度介護計画を見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院への付き添いや、通院介助、おこづかいを使つての買い物等、希望に応じて柔軟に個別での外出の支援をしている。併設のデイサービスには自由に行き来できる。ホームでは訪問美容も利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に継続して診てもらっている方が多い。緊急時には、主治医との連絡で病院を紹介していただいている。連絡が付かず、やむを得ない場合は提携医である理事長の往診があり、日中はデイサービスの看護師からの協力もある。家族との通院の際にも、必ず職員が付き添いホームでの状態や様子を医師に報告し、指示をいただいている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、ホームでは出来ることと出来ないことを明確にして話している。医療連携加算をとっておらず、精神的なケアが重点になり、医療的な処置が必要でない場合であれば受け入れ可能と考えている。また、法人の施設に優先的に入所する事もでき、その時の状況で話し合いながら方針を決めて行きたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	不快な思いをさせないように、プライバシーには十分に配慮して対応している。利用者同士の不用意な会話でも、傷つかないように中に入ってとりなしている。排泄時の誘導は、他の利用者に気付かれないように注意している。個人情報等の記録物は、事務所の引き出しに適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりの希望に合った生活を支援している。例えば起床時間や就寝時間も個人のペースであり、日中や夕食後も居室で過ごされる方やリビングで過ごされる方等、自由にいただいている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物時に、旬の食材を見ながら献立を考えている。調理、後片付けまでの一連の作業で、できることを利用者と一緒に行っている。職員も利用者と一緒に食卓を囲み、同じ物を食べている。家庭菜園で収穫した新鮮な野菜が食卓を賑わす事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	だいたい毎日入浴していただいている。希望があれば夕食後の入浴も可能である。拒否のある方には、タイミングや声かけを工夫し気持ちよく入浴していただいている。身体機能の低下した方にもデイサービスのリフト浴で対応できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や家庭菜園等、一人ひとりの得意なことや好きなこと、生活歴や習慣から把握したこと等で、現在でもできることをしていただいている。デイサービスにも自由に出かけることができ、合同で行事を行なう等、楽しみ事を多く提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩での日常の外出や、たまには外出に出かけたり、車で遠出する事もある。個別での外出計画を立て、希望に応じた場所へ職員と一対一で出かける取り組みも始めたところである。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階玄関は施錠しているが、ホームの入り口やエレベーターはロックせず、自由に出入りできる。外出傾向の方には、外へ行きたいと言われた時は職員付き添いの下で出かけていただいている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防団との連携で避難訓練を行い、他にはホーム独自でも訓練している。火災通報装置を整備し、地域の関係連絡先の一覧も作っている。地域の避難訓練にも参加する予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士に献立を見てもらい、アドバイスをもらっている。食事は毎回チェックし、水分量は必要な方のみ記録に残している。バイタルサインや排泄状態も把握している。野菜や繊維の多い食材を採り入れ、便秘に注意し、野菜ジュース等様々な飲み物を提供して水分不足に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内全体に季節の飾りつけがなされており、広いリビングには季節の花や写真が飾られ、加湿器が置いてある。オープンキッチンではリビングの利用者と会話しながら調理でき、料理の臭いや音から生活感が漂っている。食卓やソファコーナー、廊下の一息つける場所の確保等、利用者はお気に入りの場所で過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家庭で使っていた家具やお気に入りの装飾品、大切な方の写真、等趣味の物を持ち込んでいただき、居心地の良い居室作りをしている。窓から見える風景で季節を感じる事ができ、田植え時期等の作業しているところも見える。		